

を讃え、将来一層の御発展を祈る。

長谷川 万吉

英国気象学会々長

Dear Mr. President,

I greatly appreciate your kind invitation to me to represent the Royal Meteorological Society at the 75th Anniversary celebrations of the Meteorological Society of Japan. Other commitments will unfortunately prevent my accepting your invitation but on behalf my Council I extend to you our sincere greetings coupled with our very best wishes to your Society in its endeavours to advance meteorological science.

Yours sincerely,
P. A. Sheppard
President

アメリカ空軍第10気象隊司令官

Dear Dr. Hatakeyama:

It is with great pleasure that I note the occasion of the 75th Anniversary of the Meteorological Society of Japan.

The contributions of the Meteorological Society of Japan to the advancement of technical knowledge have aided scientific investigators throughout the world in their work in the fields of meteorology and geophysics. The Journal of the Meteorological Society of Japan, with its technical articles written in English, has been an invaluable source of information, not only to the successful pursuits of the 10th Weather Group in the Far East, but more especially toward the international advancement of meteorology. In this way the Society has contributed greatly to the cooperative atmosphere of the international family of nations, of which Japan is such an active member.

On behalf of the 10th weather Group, may I offer the Society our sincerest congratulations for its past achievements and our hope for its continued future success.

Sincerely,
Donald W. Roberts
Colonel, USAF
Commander

創立75周年記念大会の模様

11月7日、8日の気象研究所と合同の研究発表を皮切として、4日間にわたる創立75周年記念大会が開催された。7日8日の講演会は例年のように、両会場（第一会議室と研修所東京教室）ともに多数会員が参集し、活潑な討論がなされたが、9日は会場を大正記念館に移し、石川業六、駒林 誠、岸保勘三郎の3氏による総合講演会、祝賀式及び祝賀会が開催された。この3氏による総合講演の内容は、くわしく本誌に掲載されるはずである。

祝賀式は淵理事の「挙式の辞」によって、畠山理事長の式辞にはじまり、多年にわたり学会に対して功勞のあった佐藤順一氏に対して、次のような理事長の言葉とともに記念品が贈呈された。

佐藤順一氏の本学会に対する永年の切勞

佐藤順一氏は明治30年(1897年)の春 大分測候所に奉職し、その年から本学会会員となった。

明治34年の春、出京して山階宮に奉仕し、筑波山頂気象観測所を設立し、その後観測に従事した。山階宮菊麿王殿下御他界の後には中央気象台付属筑波山測候所長として勤務した。

大正9年8月中央気象台技師となって従軍し、サガレン派遣軍民政部垂港観測所を設立し、在任5年の後大正

14年の春 派遣軍とともに帰国し、本官を辞し中央気象台囑託として勤務した。

大正15年4月に大日本気象学会幹事に推挙され、その後引続き幹事に推挙されたこと8回に及んだ。昭和16年7月本学会が社団法人日本気象学会に改組の時その理事となった。その後昭和27年5月まで理事に当選6回、就任した。

昭和27年5月には監事に当選し、昭和29年5月満期退任された。大正15年4月からかぞえれば28年余の永きにわたり本学会のために尽力された。

この間昭和15年6月2日には雷災で在庫の図書全部焼失したので復旧につとめられた。戦時中は印刷用紙の獲得、戦後はオフセット印刷等で機関誌の維持に努力され、なおその他の印刷物の出版や、講演会の発展に尽力されたことが大きい。

次に本年度から制定された初の岡田賞は、岸保勘三郎氏に対して、岡田武松先生記念会理事長 和達清夫氏の手から渡された。

表彰式を終って、来賓祝辞に移り、文部大臣 松永東氏(吉田順五博士代読)、運輸大臣 中村三之丞氏、日本学術会議会長 茅 誠司博士、アメリカ気象学会々

長 フレッチャー博士(須田 建氏通訳)日本地球物理学連合当番学会々長日高孝次博士(宇田道隆博士代読)の祝辞が述べられ、次に祝電が披露された。

祝電を寄せられた方々は次の通りである。

ベルギー気象学会々長	Van Mieghem氏,
中国気象学会々長	Coching Chu氏,
中華人民共和国気象局長	涂 長望氏,
ドイツ気象台長	G. Bell氏,
日本地球電気磁気学会委員長	長谷川万吉氏,
英国気象学会々長	P. A. Sheppard氏,
アメリカ空軍第10気象隊司令官	D. W. Roberts大佐,

以上で堅苦しい儀式を終り、わざわざ本学会の祝賀会に参会されたアメリカ気象学会々長フレッチャー博士に対する花束贈呈が、畠山理事長の下記のメッセージとともに産経時事新聞社選出1958年ミスユニヴァース日本代表 大谷享子嬢の手によってなされた。

記念式席上でアメリカ気象学会々長フレッチャー博士に花束を贈呈の際の日本気象学会理事長のメッセージ

日本気象学会の創立75周年記念式を行うに当り御案内

を差上げましたところ、遠路の所をはるばるおいで下さって記念式に参列され、またお祝いのメッセージを頂いたことを厚く御礼申し上げます。

全世界の人々の幸福を目標として、気象の学問と技術とを発展させるためには、国際的な協力が従来より以上に必要と思います。

このお礼の心持と我々の友情への希望のしるしとして、日本気象学会理事長はアメリカ気象学会会長に花束を贈りたいと思います。御帰国の上はどうぞこの我々の心持を貴学会会員にお伝え下さい。

以上で、淵理事の閉式の辞によって記念式はとどこおりなく終了し、参会された来賓を囲み、会員で記念撮影を行ったが、その間の若干の準備時間は、清澄公園の美しい庭園を背景として、ミスユニヴァースやフレッチャー博士を追う素人カメラマンの腕を振る時でもあった。

祝賀会は来賓を交えて盛大にとり行われ、定刻19時過ぎまで、ここかしこに歓談の花が咲いた。

(編集部)